



暑い暑いと言いながらも、確かな足取りで今日の一日が過ぎ去ってゆく。懸命に生きたと思う今日の終わりには、南無阿弥陀仏。明日が来るどうかはわからないが、やって来たなら南無阿弥陀仏と。

昔、お年寄りはこの思いで毎日を過ごしていらっしやったように思える。何も当てにはならない世の中で、生きるということはこういうこと（南無阿弥陀仏に凝縮されていた）だったのだろう。それは深い人生経験の中で、否応なしに感ぜずにはいられなかった思いが、湧き出るように生まれ出た言葉でもあったのだろう。

私たちは今、現在をいきながら思う。「時の流れに身を任せ・・・」生きてはいるが、生きていてという確かな実感がもてないと。そう感じながら生きている人も少なくはないのではないだろうか。

今年もお盆で帰省を楽しみにしている方も多い事だろう。帰る者も、帰りを待つ者も「お盆」というご縁を通し、しばし家族の温かさと安らぎを、絆の確かさを感じ取っていただければと願っている。南無阿弥陀仏を故郷からのお土産に、意義ある人生を送っていただくことができれば、ご先祖への何よりの報恩感謝の姿となることだろう。

秋季永代経

9月23日(月) 午前・午後
 秋分の日

お齋あります

法話

午前
 午後

G・N
 住 職

「鈴・私・小鳥」

Y・O

昨年の年の瀬に、新年に新たな発見や気づきの生まれる機会になればとの思いを持って、法語カレンダーを部屋に吊るして、毎月の法語を味わっておりました。今年もすでに八月となり、一年の三分の二が過ぎ去ったことになりました。

そんな中、私の頭の片隅に残っている法語カレンダーのお言葉があります。それは五月に載っていた「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがってみんないい」であります。この言葉は私が以前読んだことのある「金子みすゞ詩集」の中の「私と小鳥と鈴と」の詩の最後の二行であったと思います。

「鈴」「小鳥」「私」の、その関連性については深くは考えていませんでしたが、改めて法語カレンダーに掲載されていますと、繰り返し読んで深く味わってみようという思いになりました。二転三転と思いが変わり、迷いの世界に入り込んでしまいました。そしてやがて私なりにこうではないかな、という思いにやっとたどり着くことができました。

「鈴」「小鳥」「私」姿かたちはそれぞれではありませんが、それぞれに特徴があり、この世に存在する意義があると思われたのです。法語カレンダーに掲載されている以上はもっと深い意味があるとは思っていますが、区別なく平等にその存在を認める優しさや、温かさ、そして阿弥陀様の慈愛みたいなものが、金子みすゞの「鈴」「小鳥」「私」を見つめる眼から感じられたことです。

私と小鳥と鈴と

金子みすゞ

私が両手をひろげても、
 お空はちっとも飛べないが、
 飛べる小鳥は私のように、
 地面を早くは走れない。

私がかからだをゆすつても、
 きれいな音はでないけれど、
 あの鳴る鈴は私のように、
 たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
 みんなちがって、みんないい。

「お経を習いましょう」 七月二十七日(土) 九時〜
子供大会開かれる。 於 等學寺



例年の恒例行事となっている墨俣町仏教会主催の「お経を習いましょう」子供大会に、墨俣地区、上宿地区、下宿地区合同参加で「子供大会」を開催した。約二十名ほどの児童たちが声高らかに「お勤めをし、ゲームやかき氷を楽しんだ。」

かき氷は毎年の恒例の行事内容になっているが、子供たちの一番の楽しみであるらしい。
 慣れない正座をし、お勤めをする姿は「仏の子」としての歩みの第一歩として、たくましく映った。
 大人以上に忙しい最近の子供たち、どうか明るく健やかに育ってほしいものだと思うたことだ。



かき氷を楽しむ(本格的で〜す)

光受寺学習会

八月はお休みです。

次回は九月の第二土曜(十四日)午後七時より

「お文さん」に学びたいです。

お文さんに、何を学ぶというのかといえは、それは私にしろいつかの学びです。お文を学ぶとはつまるところ仏教をそして真宗を学ぶことになるのですが、私の本当の姿を明らかにしていかなくともあるのです。自分の事は自分が一番よく知っているとはよく耳にする言葉ですが、本当は一番解っていないのが自分のことなのです。仏様が私の真の姿を照らし出してくださることによって、私の眼が開かれてくるのです。本当に明るい人生を生きるには、まずは本当の自分を知ることが大切なことだと教えてくださるのです。自分を知ること、真実を知ることとは避けて通りたいことでもあるのですが、一歩踏み出す勇気が、今が意味あることなのです。

七月二十八日(日)

天王祭

出し物

例年の夏の楽しみの一つに、墨俣の川祭りがある。お天王さんである。

各町内、団体が主として野菜を使つての展示作品を作製し、発表する日なのだ。

脇本陣グループに属する坊守は、夢中になって、作品作りに没頭していた。

2〜3日はほとんど徹夜で工夫に工夫を凝らし良くそこまでできるねと、言った感じでした。



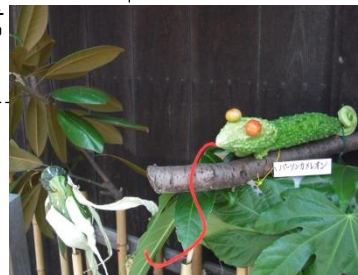
本町通りの飾り



川から顔を出している2種類のワニ。かぼちゃと長いものが使つてあります。



見事に変形したゴーヤを使つてのキングコブラと、上はライオン。



思わず吹き出しそうな表情のカメレオン

その甲斐あってか、市長賞をいただいたとか。

これで2年連続になるとかで、努力が実つてようだ。

記事募集 御遠忌が終わってから、記事がなくて困っています。内容は問いませんので、ぜひご協力ください。匿名でも結構です。